会 議 記 録

会議名称	第２回　杉並区教育ビジョン策定委員会
日　　時	平成23年６月21日（火）　午後３時30分～午後４時44分
場　　所	中棟６階　教育委員会室
出 席 者	委員 永井、坂野、清水、大浦、鈴木、神谷、野口、藤川、中島、秋山、松浦、吉田、玉山 区側 教育長、参事（特命事項担当）、教育改革担当部長、中央図書館長、庶務課長、教育人事企画課長、事務局統括指導主事、教育改革推進課長、学校適正配置担当課長、学務課長、社会教育スポーツ課長、済美教育センター副所長、教育支援担当課長　ほか関係職員
配布資料	１　第１回策定委員会の主な意見の整理 ２　新基本構想の状況 ３　杉並区立学校の学力・体力等の状況
会議次第	１　開会 ２　資料説明 ３　意見交換 ～これからの10年間を見据えた杉並区の教育～ ４　今日のまとめ ５　次回以降の日程等 ６　閉会

○委員長　それでは第２回杉並区教育ビジョン策定委員会を始めたいと思います。

まず前回、ご欠席された方がいらっしゃいますので、一言ごあいさつをお願いします。

（前回欠席者、自己紹介）

○委員長　ありがとうございました。

それでは、前回の議事録や本日の配布資料等につきまして、事務局から説明をお願いしたいと思います。

○庶務課長　まず議事録でございますが、各委員に、確認していただいております。差し支えなければ、確定したいと思いますが、いかがでございましょうか。

（「結構です」の声あり）

○庶務課長　よろしいでしょうか。では確定させていただきます。

当議事録につきましては、区のホームページ並びに教育委員会のホームページからご覧になれるようにいたします。

それでは、今日配りました資料の説明をさせていただきたいと存じます。

まず、資料１ですが、第１回目の皆様方のご意見を議事録から抜き出したものでございます。議論の際に参照いただきたいと思います。

資料２につきましては、参事から説明いたします。

○参事　では失礼します。座って説明させていただきます。

お手元に資料の２－１から２－２、２－３という綴りがあると思います。私からは、現在、杉並区が審議中の基本構想審議会の状況をご説明いたします。

この基本構想審議会は、昨年12月に立ち上がりまして、３月までの間に３回ほど本審議会を経ております。その中で、10年後の杉並区の課題整理に向けた意見交換がなされてきました。資料の順番が逆になりますが、それが資料２－３でございます。

これまでの審議会での主な意見等の再整理となっていますが、この３ページに、ちょうど教育ビジョン策定委員会の関連であります、教育、子育て、文化というところが（３）として記されております。これは本審議会でまとめられてきた意見の主なものでございます。例えば③の次代を担う子どもたちの知力、体力を整えていく教育環境の整備であるとか、⑤の10年後に今の子どもたちが自ら考え、積極的に地域参加するような自主性のある区民となるよう育てていくことが重要といったような意見が出されている状況でございます。

この３回の本審議会を終えた後に、各分野ごとに審議を深めましょうということで、今、部会を設けて審議が進行中でございます。教育に関しては、第３部会というところで、教育、子育て、文化について審議が計４回ほど今進んでございます。たまたまですけれども、今日の夜に最終の第５回の部会が開かれます。

この第３部会の審議状況を示したのが、資料の２－１でございます。下段のところに２として審議経過という記載がございますけれども、記載のとおり１回目から４回目まで現在進んでございます。

次にこの間の内容ですけれども、次の資料２－２というＡ３判の大きな資料をお開きいただきたいと思います。

ご覧のとおり、中段からやや上の箱がありますが、ここの表題がすべての子どもへの切れ目のない成長・学びの支援という大きなキーワードでまとめられてございます。左側には、子育ち、子育てと書いておりますけれども、ここに記載のような切り口、あるいは実際に出た意見を幾つか紹介してございます。

それから、右側の箱、これが学齢期以降という内容で、この２つは言ってみれば、人のライフステージに着目した議論を整理しているといったような状況でございます。これに対して、下の図でございますが、矢印で持ち上がっていまして、地域の子育て力・教育力・文化力の創造とつながりと題しております。言ってみれば、上のほうの箱がライフステージを取り巻く環境といったようなまとめになっていますが、これに大きく関わり合う要素として、地域に関するさまざまな意見、あるいは視点等を整理したものです。これら上下の絵柄の両サイドに双方向の矢印がありますけれども、両者がスパイラルの関係にあるような形で今意見が整理されているところでございます。

こうした議論を整理した上で、最終的に資料の一番上のくくりのところ、10年後のあるべき姿・目標と書いてありますけれども、実は、ここにどんな杉並区民に育ってほしいかということで、キーワードがこれからまとまってくる予定でございます。残念ながら、今日の時点ではまだ具体的なキーワードが出ておりませんけれども、参考になるキーワード例として、記載のとおり、循環であるとか、つながり、あるいは地域と密着、協働、あるいは関わり、支え合うとか、こういったものが、出されている状況でございます。大変雑駁ですけれども、基本構想審議会の状況については以上の内容でございます。当委員会で今後の議論の参考にぜひしていただければと思います。

それから、引き続きまして、前回、基礎資料ということで、杉並の子どもの関係資料として、子どもの数や学校の数に関する資料をお出ししましたけれども、その補足として、杉並の子ども像を委員の方々につかんでいただきたいと思い、済美教育センター副所長から説明をいたします。それが資料の３になります。

〇済美教育センター副所長　今、ご紹介いただきました、済美教育センターの副所長の田中でございます。私からは杉並区立学校の学力、体力、生活意識の状況についてご説明いたします。

お配りいたしました、カラー版の資料をお開きいただけますでしょうか。

１枚開いていただくとおわかりになるかもしれませんが、主に上段が小学校、下段が中学校というような、構成になってございます。

まず、学力の状況です。スライドの③、④をご覧ください。

平成21年度に実施された、全国学力・学習状況調査においては、基礎的、基本的な知識の定着、知識を活用して課題を解決するという両者で、全国と東京都の平均正答率を上回る結果でした。こちらは学力でございます。杉並区の児童・生徒の学力は全体としては良好な状況にあると考えております。

続きまして、スライドの⑤、⑥をお開きください。

習熟段階別の分析を行うことで、子どもたちの抱えている課題が少しずつ明らかになってまいります。計算いたしましたのは、杉並区学力調査、中でも平成22年度の小学校第６学年、中学校第３学年の結果です。実施時期が４月でしたので、主に学力の状況としては、前の学年である５年生と中学２年生の学力の状況に近いものになってくるのではないかと思っております。３年間にわたり、５段階に分けて追っております。本グラフからは、全学年、全教科において、習熟段階の最上位に位置する段階５、発展的な力が身についている児童・生徒の割合が最も高いことが確認できます。

しかし、反面で小学校に着目してみると、段階１、学び残しが多い児童の割合が学年の進行に伴い増加していく傾向が読み取れます。本区の学力調査は、前学年までの内容を調査問題にしておりますので、小学校では国語、算数とも小学校第５学年までの内容で、約２割の児童が学び残しの多い状況にあることになります。

中学校では、第２学年までの内容で、国語が約1.5割、数学が約1.7割、英語では２割強の生徒が学び残しの多い状況になっております。

また、中学校では学年の進行によらず、各段階の割合がほぼ固定化している傾向を読み取ることができます。これらのことから発展的な力を身につけた児童・生徒の学力を維持、向上させるとともに、学び残しの多い児童・生徒を底上げしていくことが本区の課題であると考えております。

続きまして、スライドの⑦、⑧、そして⑨、⑩、あわせてご説明をしていきたいと思います。さらに各教科の観点別の分析に進みます。

このページに掲載したのは、平成22年度小学校第６学年、中学校第３学年において、観点別に、各習熟段階に該当する児童・生徒の平均正答率を示したものです。国語科では、小学校、中学校ともに書く能力に関する課題が大きいことが読み取れます。

なお、ここでの書く能力とは、例えば文章から読み取ったことをもとに、自分の考えを書きあらわす力や論理的に整った文章を構成する力などのことです。

また、段階２と段階１に着目すると、４観点のすべてにおいて平均正答率の差が非常に大きいことも読み取ることができます。

次のページは、同様の分析を算数、数学科において行ったものです。事象を数学的にとらえて論理的に説明したり、表現したりする力であります。数学的な見方、考え方に課題があることが読み取れます。したがって、本区では書く能力、数学的見方、考え方を育成していくことが課題の中心となると考えられます。本年度の学力調査におきましては、このあたりをより細かに分析する問題で構成しております。

続きまして、スライドの⑪、⑫をご覧ください。体力の状況についての説明に移らせていただきます。

本グラフは体力を５段階に分類し、男女別に全国、東京都の比較をしたものです。平成22年度小学校第６学年では、日常生活を健康的に送るために必要な生活体力と定義できる段階Ｃ、それより上位の段階、Ａ、Ｂを合わせた児童の割合が男女ともに全国と同程度、または東京都を上回る結果になっています。

ただし、中学校第３学年では、男女ともに東京都を上回る結果ですが、全国を下回っております。体力は日常的な生活環境から大きな影響を受けるため、国や都との比較は実質的な意味を持ち得ませんが、いずれにせよ本区では、約２割から2.5割程度の児童・生徒が健康的な生活に必要な体力を一層高めていく必要にあるという状況が読み取れます。

続きまして、スライドの⑬、⑭に移らせていただきます。

こちらのページは、平成22年度小学校第６、中学校第３学年の３年間を追ったものです。

小学校の第６学年では、男女ともに学年の進行に伴い、より上位の段階が増加し、より下位の段階が減少する傾向にあります。しかし、中学校第３学年では、男子は同じ傾向にあるものの、女子については最も上位の段階が学年の進行によらずほぼ一定であり、下位の段階に位置する生徒の割合が増加する傾向が読み取れます。とりわけ中学校の女子生徒が際立って下がっているというような傾向になります。

スライドの⑮、⑯、こちらのほうは、自己効力感、相互承認、自律心、社会的な関心・思考、学習の有用性について掲載しております。これらの中では、小学校第６学年、中学校第３学年ともに、社会的な関心・思考の課題が大きいことが読み取れます。

スライドの⑰に移ります。やればできるという信念である自己効力感について見ると、学年の進行に伴って肯定率が低下していく傾向が読み取れます。

スライド⑱に行きます。

相互承認は、人間関係の基盤となる意識・態度です。これについては小学校ではほぼ一定、中学校では第３学年に大きな伸びが見られます。学び合いを初めとして、効率的、効果的な学習活

動を展開していく上でも、相互に承認し合う意識、態度の育成がさらに必要であると考えております。

スライド⑲でございます。自律心は学力はもちろん、とりわけ体力との関連が高い項目です。自らを律し、食や生活習慣を整えていくことまで含めた自律心は、小学校ではほぼ一定、中学校では学年の進行に伴って、やや低下傾向にあることが読み取れます。

最後になります。スライドの⑳、㉑番です。先ほどクモグラフで課題にしました、社会的関心・思考についてでございます。こちらのほうは、ひいては社会貢献の意識へと接続していくものです。小学校では学年の進行に伴って、向上傾向にありますが、中学校ではむしろ低下傾向にあります。

この点につきましては、最後のページに掲載した学習の有用性に対する認識との両輪で育成していく必要があると考えております。つまり、学校で学習したことを社会的問題へ適用し、その中で自分の考えを形成させることにより、この両者は極めて高く伸びていくと考えております。冒頭の学力の状況の中で説明しました、学んだ知識を活用する力にも接続するものであると考えております。

少し長くなりました。以上で杉並区立学校の学力・体力・生活意識についてのご説明を終わらせていただきます。

○委員長　ありがとうございました。

ただいまの説明に関連して何か質問はございますか。

では、私からのお願いですが、不登校の状況について、データがもしございますれば、今日でなくても結構ですので、教えていただけますでしょうか。

○済美教育センター副所長　今ありますけれども、大丈夫でしょうか。

では、不登校の状況につきまして、数になりますけれども、ご報告いたします。平成22年度の結果につきましては、今、国の問題行動調査で集約中で、夏をもって公表していくということになっておりますので、直近の21年度のデータ、20年度のデータでご説明をさせていただきたいと思っております。

不登校の人数ですが、小学校は65、中学校は167になります。全校の在籍数に対しての割合は、小学校が0.37%、中学校が2.6%です。多くの学校で発生している状況にあります。

解消率は、小学校については、43.1%がその全体の中で学校に戻ってくるという状況にございます。中学校におきましては、なかなか戻ってくる率が低くて、18%ぐらいが学校に戻ってくるという状況になっております。出現率は、平成20年度の数字ではありますが、小学校は0.45%、中学校は2.87%です。

おおよその傾向でございますが、不登校につきましては、平成18年をピークに微減の傾向にあ

ります。そして中学校につきましても平成19年度をピークに減少傾向ですけれども、年によっては少し上がったりということがあります。

また、国と都との比較をしますと、解消率につきましては、小学校は、区が一番良く、都、国の順になります。中学校は不登校の解消率がなかなかというようなことになっております。

○委員長　ありがとうございました。

ほかに何か質問はございますでしょうか。

なさそうですので、もし思いついたら後からでも結構ですので、質問してください。

それでは、意見交換に入りたいと思います。前回は、フリートーキングの形で教育に関連する、皆さん方の思いや大づかみのお考えを聞かせていただきましたけれども、今回はもう少し踏み込で具体的なキーワードを何とか少しでも出してみたいと思いますので、ご意見をお聞かせ願えないでしょうか。

その前に、たまたま先ほど２グループに分かれて行いました、ワークショップとでもいいましょうか、その結果がございますので、それぞれの内容について、お互いがお互いのことを知るという意味で、説明をしていきたいと思います。

私と職務代理者がまとめ役になったという経緯もありますので、まず、私からお話しすることといたしましょう。

横長のものが私たちのグループのものですけれども、ちょうど真ん中に「共育」と「響育」という言葉がありますが、あれが全体を覆う一つのキーワードだろうと考えております。そして真ん中に子どもへのメッセージ（総論）として、一番上に困難を超える力、夢見る力、自己実現、さらには　広い視野に立つ、夢見る力、生きる力、日本から世界に目を向けるといったようなことが出てきました。

そして、子どもへのメッセージのコミュニケーション編というのでしょうか、コミュニケーション能力を高めなければいけないという声が大分出てきておりました。コミュニケーション力の向上、言語と経験、やり取りの復活、子どもの自主と自律、人との関わり、言葉を育てる、出会い、関わることの大切さといったようなキーワードがこのあたりにまとまってきています。

それから、子どもへのメッセージの内、市民性、社会性が強調されているものが、かなり数多く出てまいりました。社会貢献を喜ぶ力、社会性を育てる、地域の力となる子ども、市民性を育む、必要とされる中学生、自己有用感を育てる、多様なボランティア活動、一日一善運動といったようなものも含めまして、社会性、市民性というキーワードでくくられるものがかなり多くあるように見受けられました。

それから、体力、スポーツ関係で、やはり姿勢のよさであるとか、スポーツの持つ力であるとか、チームワークを育てる、などが挙がりました。そして、こういう子どもに対する期待感、あ

るいはメッセージに絡めて、こちらにコミュニティの関係が、向こう側に行政との関わりがという分け方を試みてみました。

コミュニティ形成に関連しては、余り日本語で市民権を得ていない言葉ですが、社会関係資本と訳されることが多い、ソーシャルキャピタルという言葉で一つくくりました。市民協働によるコミュニティづくりを教育の基盤にするとか、民生委員、児童委員、消防団、自治会、町内会を含む制度化ボランティア的なものと市民活動的なものの融合が必要であるとか、お互いさまだとか、周りの顔が見える地域、地元のよさ、信頼のネットワーク、地域の力、あなたが先生、先生を助ける存在、子どもの教育に親が当事者意識を持とう、学校任せにしないで親の教育の向上が必要であるなど。それから、学校現場に地域の人々の考えを入れよう、杉並のすべての子どもを杉並で育てるというキーワード、教え上手は習い上手といったような言葉もありまして、最後は安全な街、子どもの安全を守るといったようなことも含めて、ソーシャルキャピタルにつながるようなものがあるのではないかということです。同じような意味も込められますけれども、共生というキーワードが随分ありました。これは、広く言えばソーシャルキャピタルですけれども、共生社会という感じで出てきたのが、助け合う心、助け合う社会、共生社会、インクルーシブルな社会、特別支援、支援する・されるが当たり前になるということ、それから、障害に関連して、社会参加ができない状態のことだとか、老人ホームと幼稚園といったようなキーワード、それから、発達障害の支援、ニート、不登校をなくすといったようなキーワード、切れ目のない支援として子どもと若者総合サポートシステム、ワンストップという言葉も出ています。

それからもう一つ、コミュニティ関連で、子育て支援についても、５つほどありました。子育て支援ネットワークの充実であるとか、若い親の不安解消であるとか、共働きの親にやさしい仕組みであるとか、放課後の居場所づくりとなるような形のコミュニティ、子育て支援がらみのコミュニティといったキーワードです。

それから、今度は行政への注文といいましょうか、似たようなことがこちらのコーナーにありまして、一つが連携、一貫、接続というキーワード、小中、それから、幼小中高大、大学との接続、高等学校との接続、小中一貫、それから幼保小中の連携、学校間連携による学び、多様な学べる場の確保であるという具合です。これら、幼稚園、保育園、小中高大というところまで一貫連携した考え方が必要なのでは、あるいはシステムが必要なのではないかという意見がかくのごとくたくさん出てきているというのは注目に値すると思います。

それから、教員の力量に関連して、教員にもキャリア教育が必要なのではないかとか、そのために核になる教員の育成が必要なのではないか、それから、教師の力量を高めようといったキーワード、また、基礎、基本の定着、単純な杉並メソッドの開発をせよといったような声、更に、杉並だからこそできる私学との学び合いを行い、教員の力量のアップに繋げられれば、というよ

うなことが出ています。

それから、キャリア教育支援をシステム化すべきではないかといった声が聞こえますけれども、プレジョブの取り組みも含めてきちんとやる必要があると考えます。地域ぐるみのキャリア教育推進の体制を組む必要があるのではないでしょうか。

もう一つ、行政がらみでは教育環境で、地域が支える学校づくり、学校に地域の風を、新しい公共空間としての学校、生涯にわたっての教育環境の整備、地域の図書館、学校の図書館を充実させようという声、司書の拡充、学校図書館等々、ソフト、ハードについて環境を整えるようにといった声。それから、ちょっと外れるのですが、人事権の委譲とか地域運営学校というのもあります。

全体を総括しますと、子どもへの期待やメッセージを中心にして、それを支えるコミュニティと行政という図式になると思います。

それから、このキーワードの中には入っていませんが、前回教育長のご挨拶の中に出てきた、競争から共創へというのもこの中に含まれていると考えていただきたいですし、いいまちはいい学校をつくるというのもこの中に入っているとの考え方でいいと思います。では、職務代理者のグループ、お願いします。

〇職務代理者　はい。若干縦長になっていますけれども、上のほうは、つけたい力ということでいろいろなものが出てきました。今、委員長のグループでも出てきました、人間関係力とか、コミュニケーション能力といったものも出てきます。

生命力とか、何があっても強く生きる力といったような言葉も出てきました。

また、違いを受けとめるということ、とりわけ外国の方や障害のある方たちに対する、違いを受けとめることができるような力、さらには他者を信頼するような力です。あるいは助ける力、引っ張っていくような力ですね。そうしたものが、いわゆるキーワードとして、つけたい力というように出てきたのだと思います。

あと学校関係と地域関係という形で大まかに整理をしてみました。学校関係や教育関係を、人の成長に合わせて区分していったら、どういう形に整理できるかなと思ってやってみたのですが、その中で、まず申し上げなければいけないのは、高校生とか大学生のときに、地域とは疎遠になっていくとか、もっと成長して、自分たちの子どもがまた学校に行くようになってくると、再び地域に戻ってくるのではないかということが出てきました。

頭のほうに戻りまして、就学の前で言えば、幼稚園と保育所の関係とか、区立と私立のつながりといったようなことについても考えておく必要があるよねということが出てきました。

また、いわゆる幼稚園教育のセンスを生かして、子どもの保育というよりは、教育の部分がやっぱり大切だよね、あるいは行政サイドに対して、専任の園長さんがいたらいいよね、子どもの

ことをちゃんとわかっている方がいたらいいよねといったことも出てきました。

あと就学前教育と小学校のつながり、学びの連続性が大切だよねということで、次には小中に行くわけですけれども、小中のほうでは、かなり具体的なものが出されたと思います。

例えば図書館ですが、学校の図書館が地域の幼稚園や保育園などにも開放されるというような意味では、学齢期がつながってくるねというようなことも出ました。

あと情報の共有ということが非常に大切だよねと。幼稚園、保育所、あるいは小学校、中学校を通じてあるわけですけれども、小中一貫を中心にして、平均80％の子どもが公立中学校へ進学するという目標があってもいいのではないかということも出ました。

さらには、先生方の専門性と、一般の方たちの情報の共有も大きな課題だよねということが出てまいりました。

あと学校ですが、今、学校開放をしていますけれども、同時に学校の安全・安心とのバランスはどうやってとるのかといったことも出てきました。

また、具体的に先生方の力をつけるのも非常に大切だよねということも出てまいりまして、例えば、研究会などに私立学校の先生方にも加わっていただいたらどうでしょうかと。

あと先ほど高校、大学の頃は何となく地域からちょっと１回切れる、離れるよねということが出てきましたけれども、こうした高校生や大学生たちも、小学校、中学校、あるいは幼稚園などのところにいていただき、自分たちが楽しんでかかわれるような関係ができるといいよねといったようなことが話し合われました。

あと成人期、あるいはもうちょっと年輩になったときにということになりますが、まずは他人と接点が必要になってくるよねということが議論の中で出てまいりました。

地域の力として、そうしたものを生かす力や束ねる力といったようなことが要りますよねとか、異なる世代、立場、職種と接する機会を考えるようにすると。そうしたいわゆる集まる場所とか、居場所、楽しめるところというのがないと難しいよねといったようなことが出ました。

個別のところで、学校の中でということではなくて、これは大きな目的のところにも多分関係があるんですけれども、芸術と教育の融合といったような形、あるいは、企業と学校のつながり、さらには、そうした企業と学校とのつながりから、キャリア教育というのも出てくるよねといったことも出されてきました。私たちのグループは、先ほどの委員長のグループのような形で、いわゆるイメージ、目的、目標があって、学校があって、地域があって、行政があってというような形ではしなかったんですけれども、こんなことができるといいよねという具体的なものも出たので、また後でご覧いただければと思います。

〇委員長　どうもありがとうございました。

かなり量的にも質的にも出てきているような気がしているのですが、これを少し整理したり、

重ね合わせたり、集約する必要が生じてまいります。さて皆さん、これをご覧になり、お聞きになり、お書きになって、あるいは他のグループのことを聞かれて、さらなる意見を求めたいのですけれども、いかがでしょうか。前回に引き続いて、意見交換、あるいは質疑も含めて行いたいと思いますが。

いかがでしょうか。

○委員　前回、皆さんの議事録を読ませていただいて、私のほうでも何か一言最初にお話をさせていただければと思いました。

実際に今日ワークショップをやって、やはり現場にいる私たちとしては、杉並区の子どもたちをこれからどうやって育んでいくか、また、ゼロ歳から15歳まで、それ以降というものを踏まえて、こういう能力をつけたいとか、こういうような世界にという前に、実際の学校現場が抱えているさまざまな課題をどうクリアしていくかという、そういったところにどうも視点が行きがちになってしまいます。こうやって改めていろいろな方のビジョンを伺って、私たちはもっともっと先を見通さなくてはいけないことを強く感じたところです。

基本構想審議会第３部会では、学校代表の人間も非常に大きい夢を語れたという話はあるのですが、実際にはそういったビジョンに結びつく具体的な施策として何をやっていくのか、そのために学校は何を実現していくのかというところに、どうしても私たちは力点が行きがちになってしまうんですね。ビジョンとして私たちが考えなくてはならないのは、10年後の子どもたちの姿であり、そのために何ができるかということだろうと思います。先程も話題になったのですが、例えば幼稚園の年長から中学校３年までというと、もうそこは10年のスパンになっているわけで、10年後の教育ビジョンというのは、現在の姿とは離れた部分では既にないんですね。今実際に進行している状況があるという形の中で考えるときに、やはりどうしても現状の中で、今まで教育ビジョンで杉並区がやってきたものをベースとして、そこからどう発展していくかというような視点を持つことが、重要なのではないかと考えます。

その上で、１年、１年積み重なっていく部分がありますので、これからの世界に生きる子どもたちをという視点を持ちながらも、現状とのバランスの中で、何を方向性として示していくかというところで、私も考えて意見を出していきたいと思います。

以上です。

○職務代理者　じゃあ、早速意見を出してくださいますか。

○委員　今のお話を続けますと、要はどういう体制でいくかみたいな話にかなり近づいてきてしまって、こういうような子どもたちをというところになかなかいけなくて申しわけないのですが。杉並区の一番のカラーというのは、幼稚園や保育園とか、子供園とかはまた別としまして、すべての学校に学校支援本部があって、地域との大きな接点になっています。それが、ほかの地区の

ＰＴＡと学校だけでつくっている、学校評議員会と学校だけの関係とは違うんじゃないかと思います。

また、区のシステムとしてコミュニティ・スクールにつきましても、今後、全校に持っていきたいという状況があるということは、ほかには例を見ない体制だと思うんですね。上越市あたりは今後全校をコミュニティ・スクールにしていこうというようなビジョンを打っているようですけれども、そういった地域とのつながりを持っている公的な教育施設がすべてにあるという、この杉並区の強みを生かした形でのビジョンの展開というのが、今までの10年間にはなかった部分になると思います。その上でどういうようなことが構築できるかということを考えることが、ワークショップの地域ですとか、コミュニティのところに書かれているようなものを具現化していける要素になっていくのではないかと思います。

〇委員長　ありがとうございました。

ほかにいかがでしょう。

〇委員　ビジョンや、理想を追い求めていきますと、どうしても学力云々というよりも、生涯教育というか、そういうふうなことを求めていってしまうんですね。例えば人としてどうあるべきかとか、どうなってほしいかとか、かなり大きなことになっていきます。そして先ほどこちらのグループでも話になったのですが、地域としての高校生や大学生のとらえ方というか、この杉並区の教育ビジョンというのはどこまでの範囲で設定するべきなのかというのがまず一つ。例えば義務教育課程までなのか、全体までなのか、その落としどころがないと、どんどん広がっていってしまって、現実性が薄れていってしまうというか、いまの段階ではまだ議論が難しいなというふうに思いました。

〇委員長　ありがとうございます。

重要なご指摘でして、それは例えばこの杉並区教育ビジョンが、子育てと学齢期という言い方をしているのですが、それを切れ目なく支援、サポートするといったような表現もあるんですね。その切れ目なくというのは大変重要なことで、15歳の義務教育終了時までで区切っていいのかどうかという縦の関係の切れ目という議論も成立するし、同時に、横の連携の問題も浮上してくるのだろうと思います。これは教育委員会だけでできるようなことではないというものも含まれているんですね。例えば児童福祉ですが、母子手帳発行段階から一貫したシステムと一貫した体制のもとに、子ども、子育て支援をやるのだということになっていくのか、あるいは児童虐待も含めて教育委員会、学校もきちっとコミットメントするのか、あるいは不登校、ひきこもりというものを、15歳でおしまいにするのではなくて、もっと長い目で見た形でバックアップ体制を敷いていくのかといった議論もどこかで出てくるのかもしれないですね。そういう問題提起を含むものが、このポストイットの中にも含まれていると私は考えていますけれども。

ほかにいかがでしょうか。

○委員　以前の教育ビジョンは、「未来を拓く人を育てる教育を」という、育ち行く子どもたちを対象とした部分と、もう一つ、卒業してしまった人達までを対象とした「自分たちで自分のまちをつくる人々の力を育成します」という２つの基本的な考え方を立てていたと思います。その辺り、どこを中心に考えなければいけないのかというところを整理する必要があると思います。先程我々が話し合った中で、高校・大学が本当に抜けていることに気づきまして、やはりこのメンバーを見てみても、大学の先生、大学院生の方はいらっしゃいますけれども、実際そういう現場に直接いらっしゃる方が参加しているかどうかで、具体的な話が出てくるのかということにも関係してくるのかなと感じます。基本構想審議会第３部会の審議に、学齢期以降という部分で、ニートという言葉が出てくるように、やはりその後のことまでも考えた上でやって、それから、地域の子育て力という部分では、地域の大人たちがどうかかわっていくかということも関係してくるかと。となると、教育という言葉一つでも、やはり全体を見据えて考えていくということが求められていると思います。

○委員　ワークショップの両方のグループに子育て支援の充実という項目が出ていました。今、子育て支援というと、お母さんの就労支援と捉える傾向もあります。そのように捉われつつある中で、やはり教育ビジョンの中での子育て支援は、しっかりと幼児期に、幼児が育っていくというとらえの中での保護者への支援というふうに押さえていかないといけないのかなと思って発言させていただきました。

○委員長　ありがとうございます。

重要な視点ですね。なるほど、就労支援とイコールになってしまっているという側面ですね。

どうぞ、次の方、お願いします。

○委員　前回もちょっとお話をして、今回も出てきておりますけれども、今後、10年ということは、今がもうそのスタートで始まっているという、本当にそのとおりです。ただ、大きなエポックになるのは、インクルーシブな教育ではないかと思っています。これは、日本のいろいろな考え方を変えていくようなものも、もしかしたら含まれるかもしれない。でも、そういう社会というのは、実は教育からボトムアップでつくれるのかというと、なかなかそうはいかない部分もあります。大人の社会が、障害のある人や老人、弱い人たちをうまく受け入れていく社会になっていかないと、子どもは大人を見て育ちますから、なかなかそういったことは進んでいかないと私は思っています。そうすると、この教育ビジョンを語るときに、区の基本構想審議会に関連させていくのですが、どういうコミュニティというのが望まれるのかというあたりは議論していかないと、子どもたちの教育をどういう方向につなげていくのか、もう一つそこのところがあいまいになってこないかなという心配があります。もちろん学力ということは学校にとっても大事な使

命ですから、そこを外すということはあり得ないと思っているのですが、ただ、それがこの教育ビジョンとして、どういうふうに語られていくのか、そういった場合、学力というのはやはりビジョンにはなかなか結びつかないだろうと思うのです。それよりはキャリア教育、人間がどういうふうな生き方をしていくのか、その生き方というのを地域や学校がどういうふうにサポートしていけるのか、そういったあたりを、私はぜひ柱にしていけたらいいと思っています。このキャリア教育というのは、障害の有無や老若にかかわらず、一生続く支援で、学齢期だけのものではありませんので、かなり大きな概念として教育ということをくくれるのかなと考えています。

○委員長　重要な視点だと思いますが、いかがでしょう。

○委員　先ほどもちょっとお話ししていたのですが、子育てという言葉がありますけれども、恐らく学校は親育てをしてほしいと思っていらっしゃると思うんです。余りに普通のことが、当たり前のことができない親が確かに増えていると、私たちも毎日接している中で疑問に思うときがあります。それを区が声高に入れることは多分できないのであろうと思いますが、私たち親は、先生たちを助けて差し上げたいと思っていることがいっぱいあります。例えば子どもたちにボランティア活動をさせたくて、ボランティア委員会をつくりましょうといったことをしたとしても、やっぱり先生がそれにかかわることになる。そうすると、先生たちはお忙しくてなかなかできないときに、ぜひ助けてあげたいと思う親も多いんです。先生たちに、正直に手伝ってくださいと言っていただければ幾らでもお手伝いできますし、あとは逆にここはかかわってほしくないと思っていらっしゃることも多分あると思うんです。それはそれでおっしゃっていただければ、幾らでも私たちは考えたいと思います。ですから本音で正直にお互いに思っていることを、言い合える場が本当は欲しいのですが、例えば保護者会は、時間が少なくて、先生からの伝達事項でほとんど終わってしまいます。保護者からも一言どうぞと言われても、大体「私の子は」とか、みんな自分のことをついつい語ってしまうんですね。ですから、そういう保護者会ではなく、大きな学校の成り立ち、あり方を話す場を設けてほしいなというのは常々思っているところです。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

ただ、コミュニティとの絡み合いの中で、教育もしくは学校にかかわっていくには親の当事者意識を刺激し、そこで学びを得ていくという間接的な意味での側面が出てくると思うのですが、ずばり親教育というと、うまくいくのかな、いかないのかな、必要なんだけれども、どうしたらいいのか。でも、そういうような講座を仮に開いたとしても、きちんと知ってほしい人は絶対来ないわけですので、それでどうするのかという議論に必ずなってくるんですよね。難しいです。ですから、知らず知らずのうちに、学校にコミットメントしているうちに、何か薄皮が剥がれるように、物事に気づいていくということのほうがより効果的なのかもしれないという考え方もあ

るので、一概には言えないところもあるような気もします。いずれにしても、とても重要な視点だと思います。

　ほかにはいかがでしょう。

○委員　今のお話ですが、確かに今までの地域運営とか、地域というとらえ方が、これまでは、現役世代は余り入っておりませんで、どうしてもご年輩の方、町会の方というようなところで来てしまっております。その地域というところに現役世代が入り込んでいくと、ＰＴＡもひっくるめてすべてが入っていき、本当の意味でいいまちづくり、学校づくりというのができてくるのかなとも思います。また、「いいまちにいい学校が」というような考え方のできる前から、地域には学校ではなくて、地域をよくするための、例えば地域区民センターがあります。そこもまた別働部隊で動いているものがあって、そことの整合性がまだとれていない部分があり、そことの整合性というか、協調性みたいなものがうまくとれると、地域というものが、より、現役世代にも見えてくるのではないかなと思います。

○委員長　ネットワークの重要性の視点も幾つかありますね。

○委員　杉並区基本構想審議会の第３部会の記録を見て思ったのですが、杉並で教育を受けると将来はどんな人に育って欲しいかという目標を設定して、という部分がございました。これはやはり考えていきたいところだと思います。目指す人間像に向かってどうしようかというときに、私は杉並にはいろいろ新しく画期的な、そして効果的・魅力的な施策がたくさんあると思います。全部網羅できませんが、例えば中学校の職場体験は、東京都では５日間といっていますが、他地区ではなかなかそれができなくて、３日間の地区もあります。ところが、杉並は５日間実施しています。それから、レスキュー隊も全部の中学校にあります。今回、震災がありましたが、このレスキュー隊、そして中学校の子どもたちが、いざという時にどういう働きができるのだろうか、ということも考えるチャンスになっています。

　それから、各小中学校では特色ある教育活動の推進をしていますが、それぞれの学校だけでとどまるのではなく、他校にどう水平展開していかれるのか、考えていく必要があると思います。また、学校支援本部の全校設置、地域運営学校、学校図書館の学校司書の配置、小中一貫教育の推進、また、言葉の教育。これらは杉並区として、大変力を入れているところだと認識しています。さらに組織的なものをあげてみると、地域には、震災救援所運営連絡会、地域教育連絡協議会、青少年育成委員会等があり、それぞれの立場で地域の子どもたちを見守り、子どもたちが活動する場面を設定していただいているのですが、それぞれがそれぞれの思いで、いいことをやっているのだけれども、どうも点というところに留まってはいないかと思うのです。これを線にしていく、さらに面に拡げていくことが必要ではないかと考えます。それをしていくためにはやはり目指す人間像を明確にしながら、それぞれの働きをしっかりと整理していくことが必要なので

はないでしょうか。つまり、新しいものを作り上げるということよりも、今ある杉並の良いものを面に拡げていくために、何を柱にしていけばいいのか、そこを考えていきたいと思います。

○委員長　とてもいいご指摘だと思います。

たまたま私たちは、今ここで今後10年間を見据えた新しい教育ビジョンを考える場にいるのですが、よいものは変えずに引き続き展開をし、さらにブラッシュアップをしてもいいわけです。つまり、変えなくていいものまで変える必要はないという態度も非常に重要ですし、その際に、これまでのキーワードで残して進めていきたいというものは残すことも大切です。何も新しいものをつくるだけが仕事ではありませんので、継続性を大事にしたような視点が必要だろうと思います。

それから、点を線に、線を面にというご発言がありましたが、これも非常に重要な発言だと思います。これはいわゆる点と点のネットワーキングのつくり方という問題が含まれていると同時に、行政内部の連携や調整がどうなっているのかといったテーマもあるわけです。その場合、連携でいいのか、統合したほうがいいのかといった議論が、ラジカルに出てくる可能性のある問題だろうと思います。

そういうことを含めながら、最後に落としどころをつけるのは、行政機関なわけですけれども、そういったような考え方をにじませるか、にじませないかということも含めて、そこまでが我々の一応仕事になるのだと考えております。いろいろとありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

○委員　学齢期の今の子どもたちを考えると、やはり小中の９年間というのはとても大きいなと思います。私ごとですけれども、私も実際に子どもが区立の幼稚園から小学校に入り、そして多分区立の中学校に進むと思っています。そこで、私の子どもは小学生なので、見えてこないところが大きいんですけれども、中学に入ると、どうしてもその先にやっぱり目が向く。高校、大学に目が向く、そんな中、小学校と中学校の連携が始まりました。先生方は、とても今、一生懸命やっていらっしゃると思いますけれども、先生方だけでなく、子どもたちももっと連携をとれればいいな、と思います。一つに、これからの大きな柱になっていくと思うキャリア教育についてですが、キャリア教育というのはどうしてもお仕事体験というイメージがありますが、本当のキャリア教育というのは、生き方の教育だと思うんですね。それが小中連携して、一緒に生き方教育ができたりすると、また一つ大きな柱にもなるかなと思っています。そこはやはり先生方、子どもたち、そして学校支援本部や、周りを支える大人たち、私たち保護者も連携していく必要があるなというのはすごく感じています。

○委員　先ほどから、目指す人間像とか、そういう話が出ていたんですけれども、私、この間、たまたま全然教育とは関係ない、一般の企業に勤めていらっしゃる方と話す機会がありました。

それで「教育についていろいろやっているんだよ」という話をしたら、「おれ、ちょっと先生たちに言いたいことがある」と言うので、「何ですか」と聞いたら、「先生たちは学校で働く前に、社会に出て企業とかで働くべきだ」と言っていたんですね。「それは何で」と言ったら、「社会で求めていることと学校で実際に教えられていることが違う」と言うんです。だから、結局、就活して一般企業に勤めて、うまくやろうと思っても、なかなかうまくできない人が多い。今は特に多いという話をしていて、なるほどと思いまいした。それで、結局、先生たち自身が社会に出ていないから、社会で今求められている人間像がわかっていないんじゃないか、そういう先生が教えているからだめなんじゃないかというのがその人の意見だったんですけれども、一理あるなと感じました。それとやはり先ほどから言っている、目指す人間像というのがあって、それは結局、一貫してみんなで共通理解していないといけないと思うんですね。それを決めるのが、杉並区の教育ビジョン策定委員会の役割ではないのかなと思います。それで、先生たちも理解して、こういう人間に育てるためにはどういうふうに何を教えていったらいいんだろうというところを、それぞれが工夫してやるなり何なりしていくと思いますので、そこがしっかりと明確であるのが大事ではないかと。結局、先生たちそれぞれで目指す人間像が違ったりとか、学校それぞれで違ったりだとか、あの先生の前でこれをやってもいいけれども、この先生の前では怒られるだとか、そういうところにつながって、子どもたちも混乱するのではないのかなとか、そういうところにいろいろつながっていくと思います。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

○職務代理者　今、皆さんのご意見をお聞きしていたのですが、ここはビジョンですから、具体的な施策を考えてもらうのは行政にお任せしていいと。ただ、そのときに、じゃあ何をといったときに、ちょうど今、○○委員からも出ていましたけれども、今までの学校というのは、いわゆるその１つ上、あるいは２つ上のところを目指すのが普通でしたよね。いい高校に入って、いい大学に入って。

けれども、今、まさに求められているのは、そのいい大学を出て、その後、どうするのかということです。大抵の場合、いい企業に入って、大企業に入ってと言うんですけれども、大企業に入って、何をするのかが問題なんですね。そのことを教えられない、あるいは考えてもらわないと、というのがまず１点目だと思います。

先ほど○○委員からも出てまいりましたけれども、杉並区の職場体験は、中学校で５日間やっているという、全国的に見ても多くない事例で、すごいなと思うんですけれども、来年度から中学校では、学習指導要領で、総合的な学習の時間がかなり削られます。そうしたときに、まじめにやっている学校ほど、来年からどうしようというので、けんけんごうごうになっていますよね。

そうしたことに対して、例えば、特設みたいな形で、区でつくる気はないのかどうかということも、多分、実際の施策の中では出てくると思います。

ただ、一番のポイントは、このキャリア教育もそうなんですけれども、教育から学びへの転換をそろそろ考えたらというのがビジョンの一番最初じゃないかなと思うんですね。何を教えるのかじゃなくて、何を身につけたらいいのかという発想で、学ぶ側の主体に変えていかないと、恐らく少なくとも10年たってからチープなものにしかならないと思うんですね。

といったときに、では何を学ぶ、あるいは何を学ぶ機会を提供するのかというのが多分ビジョンの中に出てこなければならないのではないのかなと、今日の議論を伺っていて思いました。

○委員長　いろいろと出てまいりまして、ありがとうございます。

今日この場でこうだよというような結論を出すことはちょっと避けます。むしろ今日の分け方をベースにして、さらに整理をしたものを次回以前に皆さん方にあらかじめお送り申し上げて、議論していきたいと思うのですが、どうでしょうか。

○職務代理者　それがいいと思います。

○委員長　それから、ちょっと個人的な意見を２点ばかり申し上げたいのですが、まず１点目は、公立学校がしっかりしない限り、日本の社会の将来は保障されないという事実に我々は危機感を持つべきだということです。よく私立学校へ行ってよかった、得をしたなんていう人はいますけれども、その人達だって、30年後に社会一般が壊れてしまっていたら、そこに身を置くことになるわけで、結局、自分の身に降りかかってくるということを覚悟しなければならないというぐらい、公立学校の存在はとても大事であるということを、頭のどこかに置いておく必要があるだろうと思います。

それから、２点目ですが、今日たくさんのキーワードとして、連携、接続、一貫という言葉が出てまいりましたけれども、この連携とか一貫ぐらい、言葉で言うのは簡単だけれども、やってみると厄介なことは実はないんです。大げさに言うと掴みあいのけんかになるか、（小中の話し合いが噛み合わなくて）対話が全く成立しなくなるという可能性があります。小中一貫をやれば必ず小小連携がなければおかしいはずなのに、それがない可能性が学校によってはある。例えば総合学習を例にとると、小中連携をやっている複数の小学校において、中学校の３年生時点では、知の総合化を図るべく、こういうところまで持っていくのだというものがあるとします。すると、小学校では、３年、４年、５年、６年と、小と小の間でもって、何らかの共通キーワードがなければ、本当はおかしいはずなのに、現実はそうなっていないはずです。というぐらい、非常に厄介なものを抱えています。そういう、非常に難しいものを抱えているということも念頭に置いて、この連携とか、一貫とか、接続というものを考えていく必要があるのだろうということを思いつつ、皆さん方の話を伺っておりました。

それと、私が先ほど述べましたように、今日のものを職務代理者と私、さらに事務局とで相談をしまして、もう一つ整理をした上で提示をします。そこでさらなる議論を展開していくという形にしたいと思うのですが、いかがでしょうか。今日、これでもって、こんな感じだよ、これでいこうなんていうふうにはちょっとまいらないので、ワンクッションを置いて、さらなる議論を重ねたいと思います。よろしゅうございましょうか。

ではそういうことで、次なる展開に持ってまいりたいと思います。

では、次回以降の日程並びに事務連絡につきまして……

○委員　すみません、１つ。

今日のテーマとかかわる部分で、例えばキャリア教育を具体的にどういうふうにやっているのとか、それから、小中連携の取り組みをどういうふうにやっているのかというのを、多分行政サイドには資料があると思いますので、その辺の資料提供をいただいてはどうかなと思うんですが、いかがでございますか。

○委員長　わかりました。

実はキャリア教育に関連しては、初回のときに、職務代理者でしたか、検証の必要があるのではないかというようなご意見もありましたので、実は既に教育委員会にはデータを、いずれ用意していただけるとありがたいとお願い申し上げ、かつ、就学前の子育てを含む教育に関連しての何かいいデータはないだろうかといったようなこともお願いをしてあります。

したがいまして、今のご意見も踏まえて、小中一貫についても了解があればいただくということにしたいと思います。一応、我々も現状を承知した上で、考えていく必要がありますので。

事務局はよろしゅうございましょうか。

では、次回以降の日程を含めて、事務連絡をお願いします。

○庶務課長　次回でございますけれども、第３回は、７月７日の木曜日、午後２時を予定しています。この間、２週間ちょっとで、余り期間がないものですから、今日頂いたたくさんのキーワードを事務局で整理し、次の議論がしやすいように委員長・職務代理者と調整した上で、事前にお送りしたいと思っています。

なお、その次の第４回は９月１日午後２時を予定していますので、よろしくお願いいたします。

○委員長　ほかに追加して補足してご意見等がございますればどうぞ。特にございませんか。

それでは、今日はかなりの長丁場になってしまいましたけれども、暑い中、本当にご苦労さまでした。

閉会といたします。ありがとうございました。